

## 平成 27 年 9 月新発田市教育委員会定例会会議録

### 議事日程

平成 27 年 8 月 31 日（月曜日） 午前 9 時 30 分 開 会  
豊浦庁舎 2 階教育委員会会議室

日程第 1 会議録署名委員の指名について

日程第 2 前回定例会会議録の承認について

日程第 3 教育長職務報告

日程第 4 議 題

議第 1 号 平成 26 年度教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検、評価等に関する議会  
への報告について

議第 2 号 平成 26 年度一般会計決算について

議第 3 号 平成 27 年度全国学力・学習状況調査の公表について

日程第 5 その他

会議に付した事件

議事日程に同じ

出席委員

大 山 康 一 委 員（教育長）

関 川 直 委 員（教育長職務代理者）

外 山 陽 子 委 員

笠 原 恭 子 委 員

欠席委員

桑 原 ヒサ子 委 員

説明のため出席した者

教育総務課長 杉本茂樹

学校教育課長 澁谷一男

文化行政課長 田中耕作

図書館長 鈴木秋彦

中央公民館長補佐 井浦智明

青少年健全育成センター所長（兼児童センター所長）

本間栄一

書記

教育総務課学事係長

古田祐三

教育総務課学事係主任

平山広子

資料確認

大山教育長

それでは、ただ今から教育委員会平成27年9月定例会を開会いたします。

#### 日程第1 会議録署名委員の指名について

大山教育長

初めに、日程第1 会議録署名委員の指名についてであります。笠原委員を指名いたします。

大山教育長

日程第2 前回定例会会議録の承認についてお諮りいたします。すでに送付してあります会議録について、質問等ございますか。

大山教育長

なければ、承認の方の挙手をお願いいたします。

大山教育長

挙手全員でありますので、前回定例会会議録は承認されました。

大山教育長

日程第3 教育長職務報告を行います。

職務報告については、既にご送付してあります「平成27年教育長職務報告（7月27日～8月23日分）」によりご了承願います。

大山教育長

何か質問等ございますか。

大山教育長

ないようですので教育長職務報告を終わります。

大山教育長

日程第4 議題に入ります。はじめに、議第1号 平成26年度教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検、評価等に関する議会への報告について、を議題といたします。

大山教育長

杉本教育総務課長から説明をお願いします。

杉本教育総務課長

地方教育行政の組織及び運営に関する法律第26条第1項の規定により、教育委員会に属する事務につきましては、毎年、点検評価を行い、その結果に関する報告書を作成して、議会に報告し、公表しなければならないと定められております。その報告書を作成いたしましたのでご承認いただきたいというものであります。

それでは、報告書について説明いたします。

【杉本教育総務課長説明】

大山教育長

説明が終わりましたが、何かご質問等ございますか。

外山委員

昨年に続いて今年も同じところで疑問を持ったのですが、杉本課長から丁寧にご説明いただいて、事業に対しては理解を深めたところです。皆さんが一生懸命にやっているということはよく分かりました。資料1の54ページのところで、重点事業というものがありますが、それは各課で一番やりたいものから優先順位を付けていったものと思います。スクールサポート事業はとても大切なものですし、特別支援教育推進事業も最近とても力を入れているものです。だから優先順位が高いということには納得ができるのですが、それらの事業の評点結果が0点であったということについて、やらなかったということではなくて、前年度並みにやったということとは理解できます。しかし、重点事業であるにも拘わらず評点結果が0点であったということについて少しお聞きしたいと思います。

澁谷学校教育課長

スクールサポート事業については、評価指標をNRTにしています。そのNRTというのが中学校3年生のNRTの50以上と定めておりますが、指標が50に達し

なかったため評点0ということでした。これは平成25年度に設定した指標であり、今回は平成26年度の評価ですので、果たしてスクールサポート事業の評価指標として妥当なのかどうか、今後指標を見直す必要があるのではないかと考えております。

特別支援教育推進事業については、平成24年度に設定した指標が特別支援学級の設置校数となっています。平成24年度に指標が設定された時の目標値は、現在は閉校している赤谷小学校、竹俣小学校、および車野小学校3校分が含まれていて、全34校でありました。平成26年度の実際の設置校数は30校でしたので、34校中30校に設置というような指標結果になり、判定が0点となってしまいました。これは指標の設定ミスでございます。大変申し訳なく思っております。なお、今年度につきましては、全小中学校に特別支援学級が設置されております。次年度は訂正をさせていただきます。

外山委員

ありがとうございます。よく努力されていらっしゃることはわかるのですが、このように数字に表れてしまうと、疑問が生じるのは当然だと思います。見直しや数字の訂正を行っていただきたいと思います。

大山教育長

評価指標は、一旦設定すると計画期間中は訂正できないというのがルールです。昨年度もなぜ評点が0なのかという話がありましたが、NRTを指標とするなど、目標数値があまりにも高過ぎたり、あるいは、理論的に積み上げた数値ではなく、大まかな数値を目標に設定すれば、到底達成できないことになってしまいます。そうしますと一般の方からは何をしているのですかということになりますので、今回は学校教育課だけでなく、総合計画全体の見直しですから、その辺の数値の設定の仕方というのは慎重にさせていただきたいと思います。

大山教育長

ほかによろしいでしょうか。

関川教育長職務代理者

評価の時期について、この時期に私どもの目に触れるという形ですが、平成26年度の評価が何カ月か経って出てくる訳ですけれども、もう少し早められないかと考えたことはあるのでしょうか。

杉本教育総務課長

この評価に入る時期ですが、我々職員には8月に入ってから数値が示されて、それに基づいて評価表の作成に入るとのことでございます。事務手続き的には9月議事に提出するぎりぎりの期限ということですが、その大きな理由としては、決算額が確定し、その額に基づいて事業評価を行うのですが、財務会計とも連動している関係上、決算額の確定など財務会計の手続きからすると、どうしても6月から7月にかけて数字が固まるという状況でございます。それを受けて、私どもの評価作業に入るということです。全体の中で評価を早められれば、逆に言えば、決算も早め

られる訳でございますけれども、そういった市全体の財務会計の決算額の確定を踏まえてこの評価に入るということで、今のところ、この時期に関しましては、なかなか前倒しは難しいと思っております。ただし、新年度の予算編成の重点方針ヒアリングなども8月中にありますので、評価表によらずとも、次年度に向けた前年度の評価ということは日常的に振り返りながらやっていく必要があると思っております。

大山教育長

行政の場合、どうしても決算とか評価等については1年遅れになっています。平成26年度のものを平成27年度にまとめ、それを平成28年度に活かすというようなシステムになっております。そういったことからして、評価が出てくるのが遅いという感じを受けられるのかもしれませんが、やはりどうしても大きな数字を集計したり分析したりするにはそれだけの時間を要してしまうことになります。それを防ぐ意味で四半期毎に当該年度の事業進捗については、全部の結論が出るまでではなくて、状況を進めながら見ていくといった両方のことを行わないと、今出た結果をすぐ次年度に活かしていくというのはなかなか難しいのだろうと思います。進捗管理については、委員の皆様にも十分その都度お知らせしていく方法を取りたいと思っておりますが、評価表としてこういったまとまった最終結論が出るまで時間がかかってしまうことにはご理解をいただきたいと思っております。

関川教育長職務代理者

話はわかるのですが、ただやっぱり評価指標を定めていくにあたって、外山委員からもご指摘があったように、未達成にならざるを得ないような評価指標の基準では良くないですね。澁谷課長からもそこは何とか解決していきたいというお話をいただきましたが、それはこの時期ではないのではないかと思います。今ほどの教育長のお話で、やりながら四半期毎に検討するということであるならば、そういうことは次の四半期時点で改善したいというようにしないと遅いのではないのでしょうか。平成26年度の事務事業の評価は、決算額が決まったのと同様並行的にそれを睨みながら作っていくようにしなければならない。その結果は平成28年度に活かしますということでは、その辺に行政としてのスピードの無さを感じざるを得ないわけです。私の経験上思うことなのですが、気持ち的に前倒しに考えていかないと、財政との力関係で、受身的に財政の言うことを聞かなければならないような教育委員会事務局の姿になりはしないだろうかという危惧を持ちます。教育委員会事務局職員には、ポジティブに、前向きに考えてもらい、改善がどんどん行われていくことを期待したいです。これは要望です。

大山教育長

はい。わかりました。そのように努めて参りたいと思っております。また、新しい総合計画で委員の皆様にも説明できる状況になりましたら、次回の定例教育委員会で説明を行いたいと思っております。よろしくお願いたします。

外山委員

平成26年度事務事業評価表の26ページの「中学校体育連盟支援事業」につい

て質問です。その評価指標は新潟県体力テストとなっておりますが、この体力テストというのは、小中学校すべての児童生徒が義務となっているのでしょうか、それとも各校で自由な部分があるのでしょうか。

澁谷学校教育課長

はい。すべての学校で実施しております。

外山委員

はい。わかりました。市内の運動会などを見ると、体力的にも差があるところがありまして、是非とも市内で統一して実施して、知・徳・体ということで、体力的な面も見て行っていただきたいという気持ちがあったので質問させていただきました。ありがとうございました。

大山教育長

結果が出たのではなかったでしょうか。次回あたりに報告できますか。速報値をもらった覚えがあります。

澁谷学校教育課長

はい。

関川教育長職務代理者

体力テストは、毎年、県が調査をしているので数値はきちんと出てきています。

大山教育長

ほかにご意見、ご質問がないようですので、議第1号については、原案のとおり承認してよろしいでしょうか。

大山教育長

異議がないようですので、議第1号 平成26年度教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検、評価等に関する議会への報告について、承認することといたします。

大山教育長

次に、議第2号 平成26年度一般会計決算について、を議題といたします。

大山教育長

杉本教育総務課長から説明をお願いします。

【杉本教育総務課長説明】

大山教育長

何かご質問等ございますか。

外山委員

一般会計決算書の 245 ページで 2 点質問します。一つ目は小学校の給与費のうち特殊勤務手当とは何を指しているのか、二つ目は小学校管理運営事業の手数料として 700 万円ほどあるのですが、他の事業の手数料は 10 万円から最大でも 70 万円ほどなのに、700 万円というのは金額としては大きいと思うのですが、どういうものが手数料に入っているのかということです。対象の学校数が多いからこのようになるのかということを知りたいと思います。

杉本教育総務課長

245 ページの手数料については、小学校の消火器の詰め替え、暖房器具の点検・調整の手数料、ピアノの調律や調整、クリーニング等に支出しております。このうち 2,767,000 円を各学校へ配当して、軽微なものについては各学校で直接執行し、金額的に学校の配当予算で納まりが悪いものについては教育総務課で調整をしながら執行し、結果この額になっております。

外山委員

つまり、学校数が多いからですね。

杉本教育総務課長

はい。

外山委員

それともう一点、学校規模とか児童生徒数にかかわらず均等に配当しているのか、それとも各学校の配当額に差があるのでしょうか。

杉本教育総務課長

学校配当している額は全体では非常に大きな額です。一億円を超える額が配当額となっております。それは基本としては生徒数、学級数をベースとしてそれぞれ学校に応じた額を配当しております。

外山委員

この 2,767,000 円という手数料も学校規模に応じて配当しているということですね。

杉本教育総務課長

はい。そうです。

外山委員

わかりました。ありがとうございました。  
それから、金額は少ないですが、特殊勤務というのは何を指すのでしょうか。

杉本教育総務課長

特殊勤務手当は、学校用務手がアメシロ、マイマイガ等の衛生害虫駆除等極めて

不快な作業に従事するときに清掃作業等手当として支給しているものです。学校の樹木等のアメシロ対策につきましては学校用務手に依頼しており、教育総務課で管理している防除器具を貸し出して、学校で噴霧してもらうという方法を取っております。その作業に従事した場合等に特殊勤務手当を支給するというところであります。

大山教育長

ほかにありませんか。

ほかにご意見、ご質問がないようですので、議第2号については、原案のとおり承認してよろしいでしょうか。

大山教育長

異議がないようですので、議第2号 平成26年度一般会計決算について、承認することといたします。

大山教育長

次に、議第3号 平成27年度全国学力・学習状況調査の公表について、を議題といたします。

大山教育長

澁谷学校教育課長から説明をお願いします。

【澁谷学校教育課長説明】

大山教育長

何かご質問等ございますか。

関川教育長職務代理者

考察の2ページ目の(2)各設問に見られる傾向・中学校の項イの箇所、全国平均を5ポイント以上「上回った」と説明されましたが、資料には「下回った」とあります。どちらが正しいですか。

澁谷学校教育課長

「下回った」が正しい表現でした。申し訳ございません。

大山教育長

表記上の質問です。家庭学習の時間の関係なのですが、「1日当たりの家庭学習の時間が長い児童生徒ほど平均正答率が高くなる傾向が見られた」とありますが、3時間以上家庭学習すればよいという訳ではないでしょうが、長い時間学習すれば平均正答率が良いというような印象を受けるのです。そういう意図で書いたのでしょうか。相関関係だけを書いたということであれば、分析資料13ページの表によると3時間以上学習した児童の平均正答率は3時間より少なく学習した児童のそれより低くなっている科目があります。家庭生活があって、色々なことをやりながら3時間以上延々と学習することが果たして良いのか、きちんと時間リズムを守って家庭生活を送って、集中的に学習した方が良いのではないかと感じたのですが、



その辺の解釈としてはどのように考えていますか。

澁谷学校教育課長

確かに3時間以上家庭学習をすると、正答率が高くないというデータはありますが、それ以外の学習時間では正答率との相関が見られるようです。そのことを傾向という言葉に込めたつもりでございます。足りない部分についてはご指摘をいただければと思います。

関川教育長職務代理人

ここは書き方が難しいですね。

外山委員

傾向というだけではこれを読んだ時に理解できないかもしれません。

関川教育長職務代理人

長い時間家庭学習したから良い訳ではないとも書けないです。

外山委員

「学習の中身の充実や効率」といった書き方もあります。

澁谷学校教育課長

小、中ともに3時間以上の学習時間の児童生徒の正答率が決して高くないので、「ただし、3時間以上学習する児童生徒については正答率が高い傾向は見られない」等と書くこともできます。

外山委員

それは書けないのではないかと思います。

関川教育長職務代理人

家庭学習の質が問われているとかという書き方をするとわかります。学習時間を云々すると危険だと思います。

外山委員

時間が一番わかり易いから時間を用いがちですが、やはり質ですよ。要領とか手際の良さとか集中力とか、そういうものが大切です。不器用な子どもが時間をかけて一生懸命勉強しているのに効果が上がらないということがあるかもしれません。自分が不器用だから、質的に高められない部分があるから、時間に拘って長く行っていると。そういう子どもは4時間以上など長く勉強をしている。実際は効率というか充実というか、質的な高さ、集中力が求められている。文章に表わすのは難しいですね。

関川教育長職務代理人

「高くなる傾向が見られた。」で文章を切ってしまうしないで、「高くなる傾向があ

るが、」とかにして、そのあともう一言付け加えれば良いのではないのでしょうか。

この文言は公表ですから、よく検討して慎重に行わないといけません。昨年も相当に気を使ったわけですがけれども、今年はその点、非常に良く吟味されていて良い表現になっているという感想を私は持っています。あとは詰めだと思えます。

大山教育長

そこは検討をお願いします。

澁谷学校教育課長

ありがとうございます。

大山教育長

今日、配布してご覧いただいたところでありますから、お持ち帰りになって見ていただきたいと思えます。ご意見をいただくのは予定としてはいつまでですか。

澁谷学校教育課長

9月2日の定例校長会で示し、その後、公表したいと考えております。そうしますと来週半ばくらいになりますでしょうか。

関川教育長職務代理者

定例校長会に示し、そこで意見を聞いて公表ということですか。

澁谷学校教育課長

はい。そのように考えております。

大山教育長

今週中くらいであればご意見をいただいて大丈夫ですね。来週になりますと9月議会も始まりますので、もしかして議会からも回答を求められることがあるかもしれません。今週中にご意見があればお知らせいただきたいと思えます。

大山教育長

そのほかありますか。

外山委員

数学と理科に対しては、新発田市はもう少し伸びる余地があると思えます。数学は指導主事が入ってから少しずつ平均との差を詰めつつあるのですね。残るは理科、特に中学校の理科です。化学があり、生物があり、非常に難しいのはわかりませんが、理科担当教員は市内の学校では充実しているのでしょうか。

澁谷学校教育課長

理科に関しては、市内では正規の教員が配置されています。そこはいわゆる芸能教科とは違っております。

外山委員

それならば、動機づけとか実験の工夫をしていかないといけないのではないかと思います。子どもたちは理科が苦手な子が多いです。私も夏休み期間中、子どもたちの宿題を見ていましたが、理科を苦手とする子どもたちが多くいました。内容も大事なのですが、理科を苦手だとする先入観を持つ子どもが結構いるのです。特に女の子は苦手になっている子どもが多いという感じがします。そういうところで、授業の工夫、動機づけをして、理科の楽しさを伝えていかないと、理科に関心を向けない、頭にインプットされていかないということにつながりかねないので、その辺も理科担当教員にがんばっていただきたいと思います。

大山教育長

それはNRTの結果を見ても、最近では理科と社会が目も覆うほどの惨状を呈しています。

外山委員

私も中学校の60人分の宿題に目を通しましたが、彼女たちは、理科、社会、特に社会の地理とか、気温の棒グラフの分野などが苦手なようです。特に理科については嫌だという反応を示します。辛うじて歴史は面白いと言っています。理科に近い分野の社会も苦手だという子が結構います。苦手だと思った段階で、能力はあるのに発揮できないということがあるので、導入の部分で理科担当教員に少し努力していただきたいと思います。

大山教育長

最近ではファシリテーションなども勉強されて様々な授業方法を研究されているようです。

外山委員

そうですね。それが効果を表すと良いですね。

関川教育長職務代理者

基本的には子どもたちの経験不足ということがあると思います。日常生活の中において自然との触れ合いが少ないことなどによるものだと思います。そういう点を克服できるほどの授業の組み立てを学校でできているかということ、なかなか厳しいものがあります。学校の授業では、学習指導要領で押さえなければならない基礎・基本に走る傾向があるのですね。それは当然なのですが、先ほど澁谷課長が説明されたように、実験・観察・体験と知識が結びつかない、そうした傾向が現場では大きな問題なのだと思います。授業の進め方とか手法だけでは解決しない、学校ぐるみで取り組まなければならない問題だと思います。学校の全体の取組みの中で、数学・理科が強化されていくことを考えていかないと、一つの教科だけ、一人の教員だけという取り組み方ではなかなか厳しいと思います。しまいには心身を患ってしまう教員が出てきたりするということにもなりかねません。学校というのはチームなのだと思います。小学校の場合はすぐにやれても、中学校の場合はやりにくい面もあるということで、校長のリーダーシップとか、チームとして学校が機能し

ているのかどうか、そういう点検も行ってほしいと思っています。

現場の努力も現われてきているという説明もありましたのでうれしく思いました。定例校長会等でまた良い形にしていいただければと思います。

澁谷学校教育課長

英語と数学については、夏休み中に指導主事による研修会を行いました。そこで暫く様子を見させていただいたのですが、参加した教員が負担に思っているのではないかと不安に思っていたところ、どの教員もいきいきとした表情で研修しており、大変喜ばしく感じました。良い雰囲気でしたし、研修に参加した教員の感想を見ても、「また2学期からお願いします」というような前向きな声がありました。2学期からは指導主事の訪問が始まりますし、先生方の意識の中で越えなければならない壁を越えつつあるのかなと感じております。私もかなり期待をしておりますので、今後ともご指導をよろしくお願いいたします。

大山教育長

それでは、議第3号 平成27年度全国学力・学習状況調査の公表については、今週いっぱいにご意見があればお知らせいただくこととし、今後調整をいたしまして、まとまった段階で通知なり説明を行うということで取り決めにさせていただいてよろしいでしょうか。

大山教育長

続きまして、日程第5 その他に入ります。執行部から何かありますか。

澁谷学校教育課長

いじめの再調査に関してのご報告でございます。

岩手県矢巾町の事件では、学校としては生徒間のトラブルと捉えていて、いじめとはカウントしていなかったという実態が明らかになりました。児童生徒1,000人当たりのいじめ認知件数は都道府県で最大83倍もの差があるという報道もありました。文部科学省では実態を正確に反映しているとは考え難いということで再調査を要請しています。当市でもその再調査の要請を受けて、毎年行っている「児童生徒の問題行動等生徒指導上の諸問題に関する調査」のいじめの部分について、もう一度すべての学校に対して再調査をいたしました。

その結果、当市においては、今回の調査で重大事案を3件認知し、県教育委員会へ報告を行い、現在継続調査中であることを報告します。

大山教育長

重大事案については、教育委員会から市長へ報告する義務がありますので、そのタイミングは最終的に報告がまとまった時点でということでしょうか。それでは、報告がまとまった時点で教育委員会へも報告するというところでよろしいですね。

澁谷学校教育課長

はい。そのとおりです。

大山教育長

只今の件で質問等ありますか。

外山委員

はい。新潟県では不登校が2,128人いて、その前年から28人増加しているという新聞報道がありました。その増加というのは、今までは隠していた学校も、これからは発表して指導した結果を評価するという形に変わってきたせいもあるかと思うのです。新発田市には不登校の子どもたちはどれくらいいるのでしょうか。

大山教育長

本日お配りした「新発田市の教育」の109ページに記載されております。小学校で13人、中学校で65人です。

外山委員

中学校では65人いるのですね。発生率は少ないとは言えないですね。さまざまな理由があるので必ずしもいじめだけが原因とは言えないと思います。

大山教育長

発生率については、小・中学校ともに県の発生率を若干下回っているということです。

外山委員

なかなか大変であるとは思いますが、より下回るようお願いします。

関川教育長職務代理者

実はがんばっている数字なのです。平成17年度の中学校の発生率は3.14パーセントとなっておりますが、当時の市長さんに随分とお叱りを受けたものなのです。その頃から見るとずっと下がってきています。だから努力をされてきた成果であると推察しております。1パーセント台に下がったらありがたいですね。

外山委員

普段の努力は重々承知していますが、なるべく減らしていただければと思います。

関川教育長職務代理者

今回の再調査は平成26年度内のことを調査したのですね。

澁谷学校教育課長

はい、そうです。

外山委員

ありがとうございました。

大山教育長

ほかに報告等ありますか。

本間青少年健全育成センター所長（兼児童センター所長）

8月19日に生涯学習センターにて開催された、新潟県少年の主張大会 わたしの主張 「三市北蒲地区大会」の結果を配布させていただきました。最優秀賞に本丸中学校の碓氷朋佳（うすいともか）さん、優秀賞に七葉中学校の上原青（うえはらじょう）さんが選ばれました。大変素晴らしい成績を上げていただきまして感謝申し上げます。最優秀賞の碓氷さんにつきましては、9月12日に三条市総合福祉センターで開催される県大会に出場予定です。育成センターでは、市民会議及び少年補導委員の皆さんと一緒にマイクロバスを仕立てて応援に参る予定ですので、教育委員の皆さんでご希望があれば、ご連絡をいただければと思います。

大山教育長

そのほかありますか。

田中文化行政課長

【新発田城石垣シンポジウムの開催について連絡】

大山教育長

そのほかにありますか。

古田学事係長

【敬和学園大学創立25周年記念シンポジウムの開催について連絡】

大山教育長

そのほかありますか。

大山教育長

ないようですので、教育委員会・今後の日程（予定）について、杉本教育総務課長から説明をお願いします。

【杉本教育総務課長説明】

大山教育長

説明が終わりました。何かご質問等ございますか。

大山教育長

そのほか何かございますか。

大山教育長

ないようですので、以上で、教育委員会平成27年9月定例会を閉会いたします。

午前 11 時 40 分 閉会

平成 年 月 日

新発田市教育委員会教育長

委 員